

平成20年度地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 津市

代表団体名 津市

事業名称 ICT を利活用した子育て支援モデル

1. 事業実施概要

市町村合併により拡大した市域における子育て支援サービスの地域間格差の解消等目的に平成19年度に構築した子育て支援ポータルサイト「子育てネット元気っ津」について、子育て支援システム運営推進協議会（以下「協議会」という。）の体制を見直し、管理運営ルールづくり、コンテンツのブラッシュアップ、利便性・アクセス性を向上させるための携帯電話でのポータル機能（ブログ、SNS等）を追加、さらには、動画のコンテンツの制作を行い、システム全体のコンテンツ充実を図った。

また、テレビ会議システムについては、子育て教室や保健師、母子保健推進員等保健センター関係者継続利用、テレビ電話システムについては、医師会・小児科医会等と十分に、利用策についての利用を行った。

【実施事業】

- ①準拠情報システム（ポータルサイト「子育てネット元気っ津」のコンテンツのブラッシュアップ及びそのための情報交流活性化のための検討）
- ②準拠情報システムのサブシステム及びコンテンツの開発
 - ・携帯コミュニティシステム（携帯電話からのアクセスし、情報の閲覧、情報投稿を可能にする）の開発
 - ・動画コンテンツ（市民参画の情報提供、子どもの成育のための教養コンテンツなどの制作）
- ③テレビ会議システム、テレビ電話システムの利用拡大策の模索
 - ・子育て教室、歯科教室等の開催、母子保健推進員の研修会等によるテレビ会議システムの利用推進。

※ マタニティ倶楽部（7回）、離乳食教室（12回）、2歳児歯科教室（2回）、研修会（4回）、を開催／ICT利用者率：全参加者249人中74人（29.7%）が利用

・テレビ電話システムを使った養育支援相談、保育情報の交換などの具体的な利用推進

なお、テレビ電話、インターネット電話の増設、準拠情報システムに係る公共端末の設置については、利用・ニーズの現状を踏まえ、将来的な維持経費の状況を考慮し、新たな機器整備は行わず、平成19年度に整備した機器でもって、効果的なシステム利用を検討しながら、利用を図ってきた。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
①子育て支援登録者数(団体、関係機関を含む)	1,000	597	△	ポータルサイトのリンク団体、ブログ開設団体数
②コミュニティ数	20	16	△	SNS開設コミュニティ数
③団体間の協働取組み件数	15	3	×	ホームページ、テレビ会議、テレビ電話の各システムと連動したアンケート調査
④本の玉手箱利用者数	300	160	○	SNS登録者数
⑤市内小中学校(小学校59校・中学校22校)図書館の図書の貸出冊数	355,000	404,542	○ 注	市内小中学校図書館の図書貸し出し冊数(毎年度翌年9月公表のため結果数値は平成19年度値)

注. 目標指標に挙げられている「⑤市内小中学校図書館の図書の貸出冊数」については、既に目標値を達成しているが、これは本事業での成果だけではなく、各学校図書館における図書ボランティアの活動としてチラシ等で図書の紹介を行っている事が大きく寄与しているものと考えられる。このICT利活用モデル構築事業による効果を測るにあたっての目標指標については、再考するべきものとして協議会で話し合われている。

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

平成19年度において、開発を行ったポータルサイト“元気っ津”及びSNS本の玉手箱については、情報更新・管理ルールが未確定、情報更新契約等の準備不足から情報の更新ができていない状況にあったが、協議会をフレキシブルな検討の場に変革したことにより、三重大と連携し、地域に密着した情報流通手法の検討を行ってきた。このことによって、元気っ津の情報更新、携帯電話からの利用者増加とともに、SNS本の玉手箱、みえちゃんSNSとの連携などを行ってきた。しかし、これらのシステムの完成が年度末になり、そのため、3月8日に行った「子育て応援！元気っ津まつり」がPRのスタートの場となったため、登録者数(利用者)大きな伸びにはつながっていないと考える。

しかし、以下の点については、今後の発展的な展開の兆しがうかがえる。

①子育て支援登録者数(団体、関係機関を含む)

携帯電話からアクセスできるようにしたために登録者数の増加、位置情報を付した情報投稿(参加型システム)による情報提供者としての登録数の増加がみられる。

②コミュニティ数

SNS本の玉手箱とみえちゃん+SNSとの連携について、現時点では、もっとも有効なシステムに整理されていない曖昧な状態になっているため、コミュニティが増えていない。しかし、元気っ津に関わる情報を市民が投稿し、市民が観て・利用するという参加型システムに移行してきているため、みえちゃん+SNS内に、元気っ津関連コミュニティの増加、活発化するなどの

動きがみられる。

③団体間の協働取組み件数

システムの開発等と並行してシステムの利用や運営への参加につなげるため、子育て支援の団体・企業のネットワークづくりに取り組み、その具体的な現場として3月8日の「子育て応援！元気っ津まつり」を開催してきており、企画準備段階、当日において、団体間交流、団体と企業のコラボ企画などが新たに行われるようになってきた。

<委託業務説明書>

1 平成20年度事業実施において明らかとなった課題

(1)情報の流通・交流を活発化させるため課題

- ・ 地域密着型の運営システムづくり

子育て支援等の情報については、マスコミ、雑誌、子ども関連用品の販売店、ロコミ、公共機関の掲示板情報など、さまざまなチャンネル・業界で流通していることから、地域 ICT を使った特色ある情報を提供しても、簡単には、住民の信頼と利用志向を得ていくことはできない。

このため、システムの利便性を高める以上に、本市で生活・活動する者だからこそ、住民が必要とする情報が何か、楽しいと思える伝達・表現方法は何か、などを的確に捉えた実行できる運営システムが必要である。

この対応として、市が中心になり運営システムを検討・維持していくのではなく、協議会がベースとなり、運営システムに必要な団体・企業・個人の参画を可能にし、積極的な活動が行われる土壌づくりを行っている。

- ・ 市民参画型のコンテンツ内容を充実する仕組みづくり

市民には、昨年度の「元気っ津」など一方的に行政などから提供された情報には興味がなく、自分と同じ生活目線で、同じ津市に生活する人たちから発信される情報に触手を伸ばす傾向があること、市民が相互に情報発信・情報受信できることで充足感を得ること等が、連携するみえちゃん SNS でのコミュニティで明らかになっている。

このため、本年度整備した携帯コミュニティシステムを使った市民からの提供情報は、SNS での情報提供を前提とし、有益な魅力ある情報を元気っ津ページで提供するなど、市民による市民のためのコンテンツ充実の仕組みに変えつつある。

- ・ 情報の基準づくり

上記に掲げる携帯コミュニティシステム、SNS での情報投稿は、情報の質、提供のスタイル、マナーなど一定の規範が必要であり、それを緩やかに周知し、遵守できるような基準づくりを行う必要がある。

このため、ブロガーによる情報投稿の規範の提示等を、さまざまな形式で示すとともに、編集委員会を設置し、SNS 上で投稿情報、掲載予定の情報の確認などを行う編集会議を行う実験を行ってきている。

- ・ 多様なアイデア等を生むフラット&フレキシブルな協議会体制

協議会は、部会構成の検討、開発機能の検討、開発仕様の決定、センター機器使用の決定等を行い、事業を推進することとしているが、平成 19 年度は、企画書に掲げたシステム構築方法を検討する協議会となってしまったことから、平成 20 年度はシステムを運営する組織体への変革が課題となっていた。

この課題を解決するため、協議会を3つの組織で構成し、協議会で審議する事項を検討・整理して提案する企画運営会議、提案された事項や事業の推進・運営に関する事項を審議・決定する全体会議、テーマに応じて調査・研究を行なう活動グループ会議とした。協議会を運営に責任を持つ組織へ変革を目指すとともに、自主運営に向けて事業の着実な推進に努め、さらに、各会議へのオープンな参加と情報公開を保障し、主体的な活動を図った結果、活発な議論、十分な審議や検討を行なうことができ、課題を解決することができた。

(2)システムに関する課題

- ・ 子育て支援システム（準拠情報システム）について

ポータルサイト「元気っ津」については、利便性の向上やシステムの普及拡大を目的として、携帯電話からもアクセスできるよう、携帯コミュニティシステムの構築を行った。

また、情報の交流・活発化の観点から、市民参画型のコンテンツ内容の充実する取り組みを進めてくると、システムとして、パソコン版のポータルサイト「元気っ津」、携帯コミュニティシステム、SNS 本の玉手箱、連携するみえちゃん SNS と4つを関連させて動かしていくことになり、機器等の維持・メンテナンスや情報の連動、編集委員会での情報の内容管理など、効率化の観点から検討が必要になってきた。

また、携帯コミュニティシステムについては、大手携帯電話会社の技術的な特色などを踏まえ、共通基盤をさぐった結果として Google マップを使い地図とコンテンツ（イベント、ロコミ、観光スポットなど）を分かりやすく提供するところに至っている。

このため、システムの技術的な新規開発よりも、よりコンテンツの魅力を高めることが重要な課題であるという認識に至っている。

平成 21 年度には、平成 22 年度以降の運営自立化を図るために、システムの効率化、コンテンツのブラッシュアップ、市場調査と事業領域の更なる絞込みなど、ビジネスプランの検討も行なっていく。

- ・ テレビ会議システムについて

平成 20 年度は、マタニティ倶楽部・赤ちゃん離乳食教室・2 歳児歯科教室と母子保健推進員研修会を実施し、合計19回のシステム利用と249名の参加があった。

結果としては、研修会や職員の会議については、最寄りの会場で出席できることから、時間の有効利用につながり、今後も利用を進めていきたいと考えている。

しかし、赤ちゃんや子ども連れの場合は子どもの声を拾ってしまうため、講師の声が聴き取りにくく、活用の仕方に工夫が必要であることなど、課題が確認できた。

- ・ テレビ電話システムについて

今年度、小児科医、保育所、行政施設など38箇所の施設に配備し、試験運用を開始した。画像がなめらかで、見やすいこと、操作が簡単であることから、利用しやすいと考えられるが、保育所から小児科医への相談には、小児科医の診察時間帯との兼ね合いなどから、相談時間帯等についての十分な検討が必要となっている。

また、本年度の運用結果、実験結果を踏まえて、効用を見極め、投資効果の高い利用形態の絞込みを行い、長期的な地域利用を検討するなど、今後の運用について、検証を行なう予定である。

2 自律的・継続的運営の見込み

準拠情報システム（ポータルサイト「元気っ津」、携帯コミュニティシステム、SNS 等）については、協議会が主体的かつ活発な議論が行なえる場となったことから、収益を見込んだ企画などのビジネスモデル化を図るための方策について、柔軟かつ具体的な議論をしており、自主運営に向けて、協賛企業の参画による広告料など収入につなげられることが見込まれる。

実質的に運営組織については、当初より「関係機関・子育て支援団体、民間企業に加え、津市の元気大学等の市民活動団体の参画を得た企画運営組織」を想定していたが、現在、共同研究（再委託）として三重大と進めているなかで、地域への社会的な事業をさらに推進していく三重大と、産官学民の連携組織である社団法人三重県情報通信基盤整備協会において検討されている実行組織（特定非営利活動法人）との連携を模索している。

また、「津市げんき大学」が21年度より、市民対象の人材育成事業（継続）や、子育てに限らず地域・まちづくり、観光・商業等活性化事業の展開を検討しているので、その提携も検討を進めていく。平成21年度にビジネスプランを検討し、自立的・継続的な運営が図っていくこととする。

なお、テレビ会議システム、テレビ電話システムについては、利用形態が、教室や相談が中心になるため、行政的利用など事業領域の絞込みを行ない、効果ある事業展開になるよう検討していく。

一方、長期的にシステムを使い、自らの活動に生かし、活動団体・企業間とともに市民とのつながりを持っていくためには、多様な交流の機会を設け、活動を積み重ねていくことが、システム運営に関わることになる考える。

3月8日に開催した「子育て応援！元気っ津まつり」の交流イベントを第一歩として、次世代育成支援行動計画の改訂、こどもの権利条例づくり、要支援家庭の地域サポート体制づくりなどの取り組みを、子育て支援のネットワークを常にベースに考え、市民と共有していくツールとして、本子育て支援システムの利用を図っていく。

このことによっても、本システムの継続的な活用、そして社会的な役割を明確にしたうえでの、活用が図れる。

3 今後の展開方針

3月8日に開催した「子育て応援！元気っ津まつり」での携帯コミュニティシステムやコンテンツの実証実験の結果を踏まえながら、事業領域の絞込み、ビジネスプランを検討を進める。

また、取り組みの過程を通じて、子育て支援のネットワークを構築することにより、子育てを地域で支える「ささえあい」による「つながり」のまちづくり、地域の共助の仕組みを作っていく。

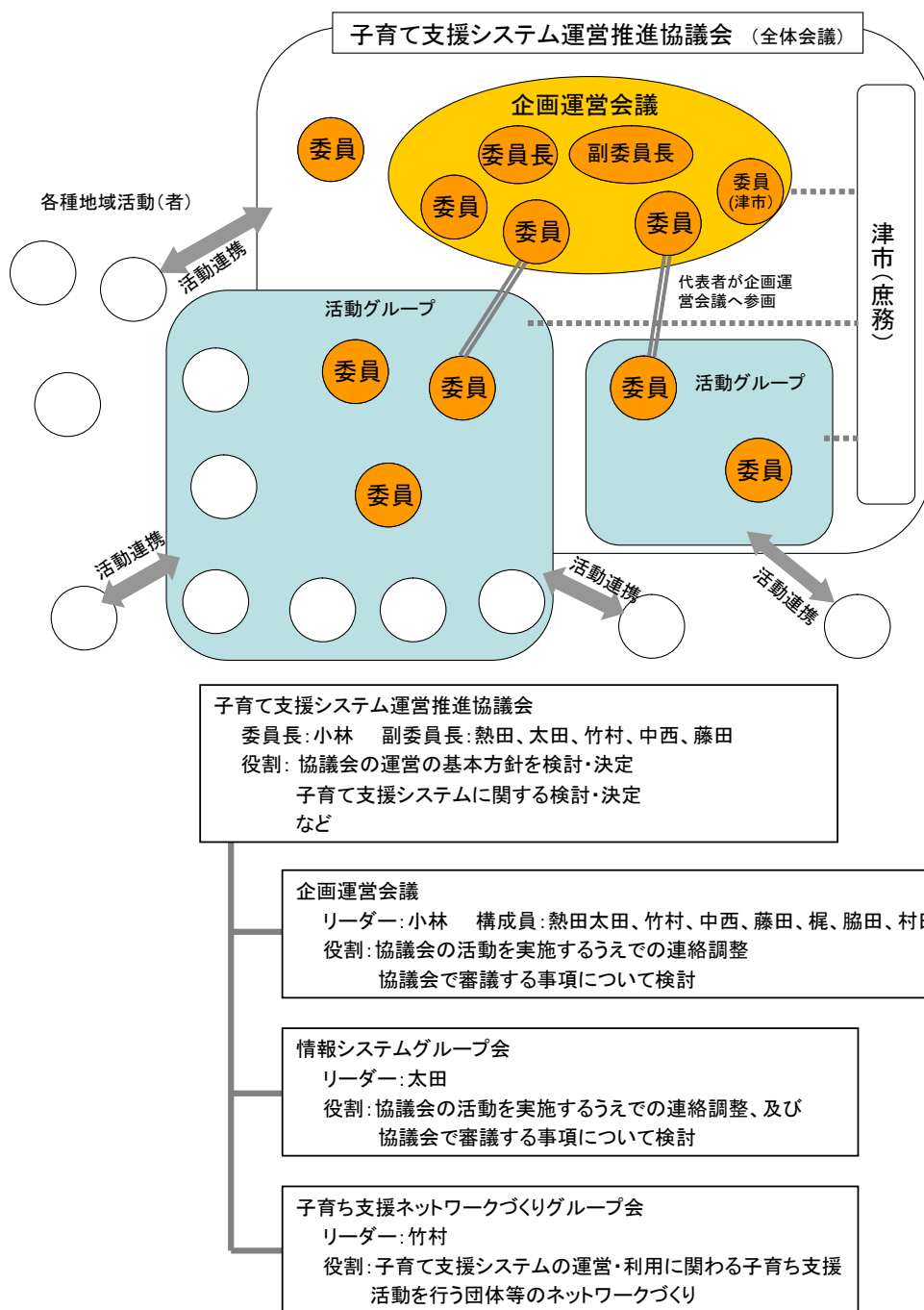
さらに、「元気っ津」から地域情報を発信するとともに、「みえちん＋SNS」との連携により、利用者が単に利

用だけでなく、情報発信など参加もできるしくみを作り、地域ICT技術の普及・定着を着実に推進していく。

<実施体制説明書>

1 実施体制

(1)子育て支援システム運営推進会議 全体図



協議会をシステム開発する組織からシステム運営ができる協議会として、機動性と柔軟な検討を重ねられるよう組織の見直しを行ない、協議会には、全体会議、企画運営会議、活動グループ会議を置いた。

全体会議は、委員全員で構成し（希望者は原則参加可能とする。）協議会運営の基本方針に関することなどを決定する。

企画運営会議は、協議会で協議・検討する事項、決定しなくてはならない事項を検討・整理します。構成は、正副委員長、各活動グループの代表者、および希望委員で構成する。

また、課題や事業の方向性から、具体的なテーマを絞って研究する活動グループを組織し、事業の推進を図る。現時点では、「情報システムグループ会」と「子育て支援ネットワークづくりグループ会」を開催し、前者は、携帯コミュニティシステム機能の開発及びそれにともなう子育て支援システムのコンテンツの改良について、後者は、子育て支援システムを長期的に利用するため、子育て支援活動等を行っている NPO・団体にシステムの普及とその活用を促進する必要がある、そのためのネットワークを創るグループ会を設けている。

なお、会議（組織）の庶務は、いずれも津市が行なう。

2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	津市	○事務局（庶務）、協議会、企画運営会議、システム G、ネットワーク G ・子育て支援システムにおけるシステムの検討、子育て支援ネットワークの構築に係る中心的検討機関 ・テレビ会議システム運営主体 ・テレビ電話システム運営主体 ・長期的なシステム運営方策についての検討者
2	学校法人 高田短期大学 育児文化研究センター	○協議会、企画運営会議、ネットワーク G ・保育等子育て支援専門機関 ・コンテンツ改良、携帯コミュニティシステム開発のための助言・協力者 ・VOD コンテンツ情報提供機関 ・子育て支援ネットワークづくりの助言・協力機関
3	津市立 三重短期大学	○協議会 ・システム開発・運営への助言・協力機関
4	三重県立 看護大学	○協議会 ・母子保健等子育て支援専門機関、コンテンツ改良、ネットワークづくり助言・協力機関
5	国立大学法人 三重大学	○協議会（委員長）、企画運営、システム G、ネットワーク G ・協議会の運営調整 ・子育て支援システムにおけるシステム、情報流通の助言・協力者 ・携帯コンテンツ開発に関する助言・協力機関
6	国立大学法人 三重大学 医学部	○協議会 ・子育て相談、緊急応急など専門機関
7	国立大学法人 三重大学 教育学部	○協議会（副委員長）、企画運営、ネットワーク G ・コンテンツ改良、ネットワークづくり助言・協

平成 20 年 11 月 10 日	第 4 回企画運営会議（資料⑧）
平成 20 年 11 月 21 日	第 5 回企画運営会議（資料⑨）
平成 20 年 12 月 11 日	第 4 回子育て支援運営推進協議会（資料⑩）
平成 21 年 2 月 3 日	第 5 回子育て支援運営推進協議会（資料⑪）
平成 21 年 3 月 2 日	第 6 回子育て支援運営推進協議会（資料⑫）
平成 21 年 3 月 23 日	第 7 回子育て支援運営推進協議会（資料⑬）

事業実施進行表

実施内容	H20 7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H21 1 月	2 月	3 月
I 協議会運営									
協議会・企画運営委員会の趣旨・活動目的の共有	△								
各システムの運営体制についての認識共有									→
協議会の開催		△△		△		△		△	△ △
企画運営会議の開催（併システムグループ会議）		△△	△		△△		△	△△	△
ネットワーク・グループ会議			△△	△			△△	△	△△△
システムの運営についての研究会、交流会の開催、現場調査等			△ 研究会		△	共同研究		交流会	▶ ▲
						現場調査、事例調査研究は随時実施 ビジネスプラン等、運営計画の研究			▶
報告書作成						△			△
II 準拠情報システムの運用・開発									
コンテンツのブラッシュアップの検討									→
ホームページ、SNS、ブログ、など各システムの利用拡大を図るための研究とPR等の実施									→
システムの改良及びサブシステムの開発に係る仕様等の検討						共同研究			

実施内容	H20 7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	H21 1 月	2 月	3 月
システムの改良 及びサブシステム の開発に係る 競争入札								→	
システム構築								→	
システム稼働									→
Ⅲ テレビ会議システムの運用									
システム運用									→
講座等の開催 (随時)									→
システムの有効 な利用策につい ての研究									△ 評価
Ⅳ テレビ電話システムの運用									
システム運用									→
相談業務（定期的 に実施）									→
システムの有効 な利用策につい ての研究							→	△ 評価	

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

(1) 本事業において構築したホームページ

- ・子育て支援ポータルサイト「元気っ津」 <http://www.tsugenkids.jp/>

(2) 本事業で構築したポータルサイトを紹介するホームページ

- ・津市ホームページ <http://www.info.city.tsu.mie.jp/>

平成 20 年度地域 ICT 利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：津市

代表団体名：津市

事業名称：ICT を利活用した子育て支援モデル

1 概要

津市では、ICT を利活用した子育て支援モデルを構築することとしており、平成 19 年度には、地域情報プラットフォームに準拠した情報システム（以下「準拠情報システム」という。）の開発を行った。

この準拠情報システムは、すべてパソコンからの利用を想定しており、更なる情報の発信や利用者の拡大のためには、パソコンより多くの利用者を持つ携帯電話からの利用を可能にすることが課題となっていた。

このため、平成 20 年度は、準拠情報システムを携帯電話から利用できるようにするとともに、最近の携帯電話が搭載するカメラ機能や GPS 機能を活用し、位置情報と電子地図を用いて利用者同士が情報を双方向にやり取りできるようにすることを目的に、携帯コミュニティシステムの開発並びにコンテンツの作成を行った。

2 運用結果

ブログ等のコンテンツのブラッシュアップを行った。また、新たに構築した携帯コミュニティシステムを含め、準拠情報システムの PR のため、市の子育て関連イベントにおいて、システムの体験コーナーを設け、親子をはじめとする多数の参加者があった。

テレビ会議システムは、昨年度に引き続き、市内 10 箇所の保健センターにおいて、子育て教室の同時配信に用いられた。

テレビ電話は、市内の公立幼稚園、保育園、小児科医、NPO 等子育て支援拠点の計 38 拠点到設置されており、円同士または各園とその園医との間で情報交換や相談業務に活用中である。

3 課題・改修の必要性

子育てを行う家庭の保護者が安心して子どもを育てられるよう、情報取得のための操作性の向上、コミュニケーションの活発化のため、引き続きコンテンツの改良などの必要があります。

4 その他

ブロードバンド環境の普及率の高い地域性を活かし、光回線、ADSL 回線、CATV 回線等による高速なネットワークを用いたシステムとなっている。